

# 2017年11月クルディスタン報告書

日本クルド友好協会



11月15日 - クルディスタン議会：対話の呼びかけが無視されるのであればイラクの政治的枠組みから退出する

クルディスタン地域議会は15日、イラク首相ハイダル・アル＝アバディにクルディスタン地域への脅し文句と一方的な措置を再考するよう要請した。クルディスタン地域は声明の中で対話の再開、憲法の遵守、メディア対応に終始するのではなく地域政府と向き合うことを要請した。(クルディスタン24)

11月15日 - プーチンとトランプのシリアに関する声明はエルドアンの期待を裏切る。

ロシア大統領ウラジミール・プーチンとアメリカ大統領ドナルド・トランプが11日に発した共同声明は、シリア問題に軍事的な解決はありえず、問題に関与する全ての勢力がジュネーブに参加すべきであることを明記しており、トルコ大統領レジェップ・タイップ・エルドアンの神経を逆なでするものであった。

声明は明らかにシリアのクルド人の役割とシリアの将来におけるトルコの役割に関するエルドアンの読みを狂わすものであった。

エルドアンは11月14日夜のプーチンとの会談で、アメリカとロシアの声明に不快感を示し次のように述べた。「もしシリアに軍事的解決があり得ないのであれば、アメリカ、ロシア双方とも兵を引くべきである。国際社会は馬鹿ではない。アサド政権は自国民を、およそ100万人殺害した。トルコはシリア領内に軍を展開していない。先ず兵を引きそれから政治的解決を模索するのが筋ではないか。アメリカは北シリアに5つもの空軍基地を有している。ラッカに新たな基地を築こうとしている。他に8つの軍事基地を有している。ロシアは5つの軍事基地を有している。これらの事実についてどうお考えか?」。トルコ政府とロシア政府はクルド勢力の処遇を巡って3つの譲歩できない問題がある。

1. トルコがイドリブにおいて停戦区域設立を後押ししていることの見返りに、トルコはクルディスタンの統一を防ぐためにアフリンにおいて軍事行動を起こすことを欲している。
2. しかしながら、トルコは、イドリブにおける停戦地帯成立を後押しする見返りに、「クルド回廊」成立を阻止するためにアフリンで軍事行動を起こすことを欲している。
3. ロシアはアスタナで合意されたトルコによるイドリブでの停戦監視が続くことを欲している。ロシアが主催するシリア人民会議にクルド人は参加する見込みである。これはトルコの利害に真っ向から挑戦するものである。ロジャバの民主統一党(PYD)はジュネーブの

平和協議に参加する。現在まで、トルコはいかなるクルド人勢力の平和協議への参加を拒否している。

トルコ政府は、アスタナで全面協力の姿勢を見せたにも関わらず、ロシアがトルコの要求を拒否することに動揺している。ロシアとクルドの接触は、トルコがアフリンにおいて軍事行動を起こすことを容認していないことを示した。

11月16日 - イラク国会議員：中央政府はクルディスタン地域の危機打開に向けた極秘の協議実施中

イラク国民議会国法連合派の議員カメル・アル＝ザイディ氏によると、イラク中央政府は独立を問う住民投票が引き金となったクルディスタン地域の危機解決に向けた極秘の協議を実施中である。ザイディ氏は、アバディ首相が「住民投票によって生じた危機を解決するために、有力政治家を筆頭にした極秘の委員会を設立した」と述べた。

11月18日 - クルド人作家ジュモ氏：AKPはPDKをロジャバとPKKに対抗する道具にしている

クルド人著述家であり研究者でもあるフサイン・ジュモ氏は、南クルディスタンの政治的失敗が、地域並びに国際的介入を誘発しキルクーク失陥につながったと指摘している。ジュモ氏はヨーロッパに拠点を置くクルド系ユーフラテスニュース・アラビア語版の取材に対し、大国はバグダッド中央政府とクルディスタン地域政府(KRG)の統治下にあるイラク領内に紛争を起こそうと画策し、現在の状況は今後も続くだろうと観測述べた。また「アメリカやイギリスもこの流れに乗る兆候が見られる」と指摘する。この2大国はイラクに大きな利権を有しており、両国のクルディスタン地域における政策目的は一致しているわけではないとのことだ。アメリカとイギリスの対イラク政策目標ははっきり異なっており、さらに両国ともスンニ・アラブ、シーア・アラブそれぞれに対する政策目標は全く異なると強調する。大国はKRGと中央政府の協調を促しているが、両政府の協働はあくまでイラク憲法の遵守が前提だと主張する。

- ・原油収入に対する制約

ジュモ氏によれば、様々な利権を狙う石油企業各社にとって、キルクークの石油獲得を目指す際に最大の障害がKRGである。トルコとイランにとって係争地は中央政府にあったほうが、都合がいいのである。

- ・キルクークは中央政府の支配下にとどまらない

ジュモ氏は昨年10月16日の夜キルクークに発生した出来事について以下のように説明する。「大国にとって今回の事件はクルディスタン地域における利権獲得の上で些事に過ぎず、その戦略において確固たる地歩を築いたわけではない。結局中央政府のキルクーク支配は長続きせず、クルド人はキルクークを失ったわけではない。もしクルド人が戦闘をしないのであれば、アメリカからの支援をあてにすることは非現実的だ。最も重要な問題はアメリカの出方である。2011年に地上軍を引き上げて以来、この地に部隊を派遣しないことが基本的な方針となっている。この基本方針に則って、ロジャバ(北シリア)ではクルド人主体の人民防衛隊を支援し、南クルディスタン(イラク領内)においてはペシュメルガを支援している」

- ・アメリカはペシュメルガが抵抗しないから支援をしなかった

アメリカは自衛をしようとする勢力には支援しない。10月16日夜のキルクークでの出来事を振り返ると、ペシュメルガは全くの無抵抗で兵を引き上げたのであった。バルザニ麾下もそうでない勢力のペシュメルガも抵抗のそぶりをみせなかった。アメリカはペシュメルガが抵抗する気配がないのを見て、介入の姿勢をみせなかったのである。

- ・南クルディスタン政府はトルコ領内の情勢変化を把握し損ねた

ジャモ氏は今回の一件について、トルコ政府の対応は初動からクルディスタン地域に敵対的であり、両政府の友好関係に関するニュースは過去のものに過ぎなかった。ジャモ氏は言う、「トルコ政府はクルディスタン地域を草刈り場と見做している。AKP は PDK をロジャバや北の PKK に対抗手段にすることを欲している」。さらにクルディスタン地域政府は、トルコの情勢分析を怠りエルドアンとバフチェリ（トルコ至上主義政党指導者）の同盟が意味することを把握することができなかつたと結論付けた。（ユーフラテスニュース）

11月19日 - 信頼性を問われる BBC の報道

BBC は、テロリストや密輸業者の言い分に基づいた報道によって、シリア民主軍(QSD)に不当な汚名を着せている。QSD はダーイシュを壊滅させその「首都」並びにシリアにおける最大の拠点解放した立役者だ。「ラッカ解放の不都合な真実」と題した報道によると、アメリカ、イギリス、クルド人勢力はダーイシュと「密約」を交わし、ダーイシュ戦闘員がラッカから脱出することを助けたという。記事において、クルド人勢力はダーイシュ戦闘員にその家族を伴い、武器弾薬を保持したままデリゾール付近の支配下の村や町へ向かうことを許した主張している。さらに有志連合の空軍機は脱出するダーイシュ戦闘員の車列を3日間も傍観していたとしている。しかしながら、その報道には作り話、相互に食い違い、歪められた情報が含まれている。そのような不確実な情報に基づく今回の報道は BBC の信頼性を傷つけるものである。

11月28日 - 中国王毅外相：クルディスタン地域、イラク双方に関係正常化に向け対話を要請

ヘウレル：中国はクルディスタン地域とイラクに対話を通じた問題解決を求める国際的呼びかけに加わった。28日にクルディスタン地域政府首相ネチルワン・バルザニに送られた書簡の中で、中国王毅外相は10月28日以来継続する停戦状態を称え、「この停戦継続の努力が続けられこと、緊張が緩和されること、両政府間の問題はイラク憲法に則り対話によって解決されること、イラク国民を構成する全ての集団の権利が保障されることを望む」と中国の要望を伝えた。中国の駐ヘウレル領事譚邦林氏が、本書簡を携えバルザニ首相と謁見した。